

ジェイムズ・ワード著

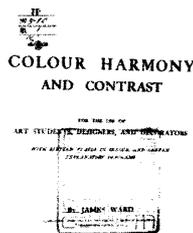
『色彩の調和と対比：美術学生、デザイナー、装飾美術家のために』

ロンドン(チャップマン&ホール書店)1903年初版

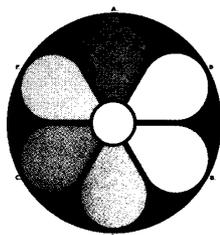
(縦24.2cm×横16.0cm 140頁 16彩色リトグラフ図版)

James Ward

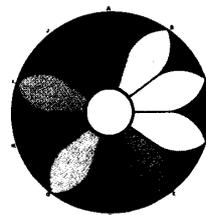
Colour Harmony and Contrast: for the Use of Art Students, Designers, and Decorators,
London: Chapman and Hall, 1903



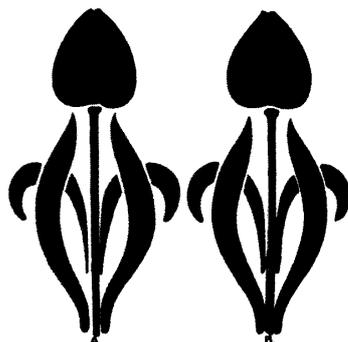
☒ 中表紙



☒ 原色と補色の
Broken Tone



☒ 花型の色相環



☒ 均一とグラデー
ーションの
効果比較



Harmonic Balance of Warm and Cold Colours.

☒ 暖色と寒色の調和例

(東京藝術大学附属図書館蔵)

イギリスの哲学者・心理学者ジェイムズ・ワード(1851-1924)は、デザインに関する著作者でもあったが、20世紀の初めに色彩の調和と対比について心理学の視座から本書を著した。この題名からしてシュヴルールの影響は一目瞭然であり、シュヴルールが使った色彩用語ton rabattuなどの英訳であるbroken tone, broken colourという表現が何度も記されている。^注本書では上中央・上右の図から察するに、明暗や濁度という属性概念のあいまいさが伺える。

内容は目次順から冒頭に光の理論、色の飽和度(サチュレーション)、原色・2次色、色の混合、補色、色彩の対比現象、色彩調和、ダイアード・トライアード・テトラード、美術における彩色の発展、色材についての補説というように連なる。

壁画や壁紙に応用するための配色マニュアルとして、原色や補色、調和と対比、加えて様式化された草花などに関する図版と解説が淡々と綴られている。本書の特記すべき点は、表紙や図版のデザインの随所に、当時爛熟期であったアールヌーヴォー様式の香りを感じさせる装飾が施されているところである。下側の図2点に共通するような曲線的で優美な図版が多い。

芸大図書館には本書が2冊(1903年の初版と1912年の第2版)あるが、初版の表紙の破損が激しい。とはいえ中身のリトグラフ図版からは、100年経っていると思えないほどの鮮やかさと繊細さに感銘を受ける。なお、文化女子大学図書館も第2版を1冊蔵している。

日高杏子(多摩美術大学・文化女子大学)

注 電気通信大学の小林光夫氏と吉識香代子氏は、ton rabattu, couleur rabattuを「濁度」という日本語に訳している。